

# 「安定した経営を確立し後継者に繋げる法人を目指す」

農事組合法人 伯耆の郷  
代表理事 加川 賢明



伯耆の郷水田から見る瑞風

## 1. はじめに

集落の農業の活性化を目指して、平成 22 年 3 月に 集落の 32 戸の組合員の出資により、「農事組合法人伯耆の郷」を設立しました。「組合員の農作業の軽減及び農業経費の削減を図り、高齢化に伴う耕作放棄地発生抑制及び既存の耕作放棄地を解消していく」が法人の基本方針です。法人を設立して 10 年、これまでの取り組みを評価していただき、今年度鳥取県優秀経営農林水産業者として受賞しました。近隣集落からの耕作依頼が増え、4ha から始めた農地集積が今では 25ha となり、集落の受け皿となる経営体として、そこそこ信頼される法人に育ったと考えています。今後とも、更に経営の発展と安定した法人であることが、後継者が安心して経営を継承できるのに必要だと考えています。

2 経営の現状について

(1) 労働力

常勤者 理事 3名  
           A 男性 [ ] (大型特殊・けん引免許有)  
           B 男性 [ ] (大型特殊免許有)  
           C 男性 [ ] (大型特殊免許取得見込)  
 非常勤者 2名  
           D 男性 [ ]  
           E 男性 [ ]  
 作業委託者 10名 (草刈等)

(2) 経営面積(R1) 24.0ha

  水稻作付面積 (21.4ha)  
   小麦作付面積 (2.2ha)  
   白ねぎ作付面積 (0.2ha)  
   ソバ作付面積 (0.2ha)

(3) 作業受託面積(R1)

  水稻刈取面積 (6ha)  
   乾燥調製・籾摺面積 (7ha)

(4) 主な所有機械施設

表1 所有施設、機械一覧

作業場	[ ]
パイプハウス	
トラクター	
トラクター	
田植機	
コンバイン	
乾燥機	
乾燥機	
乾燥機	
玄米色彩選別機	
籾摺機	

### 3 プランの目標、課題、問題点とその改善策

#### (1) 目標

「経営面積を30ha、作業受託を10haへ拡大し、近隣の耕作放棄地を発生させない」ことを、当プランの目標とする。

#### (2) 課題

上記の目標を達成するには、将来にわたり継続できる法人経営の発展と安定を図ることが必要である。そのためには、経営面積が増えていく中で①水稲の収量品質の向上 ②施設・機械の整備による安全性・効率性の向上 ③経営を継承できる後継者の育成が課題となる。

#### (3) 問題点と改善策

##### ① 水稲の収量品質の向上

(問題点)

- ・水稲面積の拡大に伴い反収が伸び悩んでおり、コシヒカリが6.7俵、きぬむすめ7.1俵と低くなっているのが現状である。原因として、水管理の不徹底による雑草の多発、穂数不足、地力の低下などが考えられる。
- ・現状のコンバインの刈取能力は1日当たり1.3ha、水稲28ha(法人分22ha・受託分6ha)の刈取りに延べ22日を要する。特に刈取ピークである9月中旬、10月上旬は、1台のコンバインでは作業が間に合わず刈取りの適期を逃し、品質(等級・食味)に影響してくる。既存のコンバインは導入後10年使用しており、毎年100万円以上掛けて修繕しているが、いつ使用不能になるか心配している。

(改善策)

- ・水管理については、圃場をブロック化し各担当者を置き、除草剤散布後の水管理を徹底し雑草の発生を抑える。その後の間断かん水、中干しを適期適切に行い、穂数を確保する。また、生育に応じた追肥を積極的に施用することにより反収向上を目指す。さらに、土壌改良剤の連年施用による土づくりを行い、平均反収コシヒカリ7.5俵以上、きぬむすめ8.5俵以上、水稲売上高            千円を目標とする。
- ・新規に高能率な6条刈コンバインを導入し、一日当たりの刈取能力を現状の約1.5倍に向上させることにより、適期収穫を行い品質低下を防ぐ。

##### ② 施設、機械の整備による安全性、効率性の向上

(問題点)

- ・米の乾燥作業場がJR沿線のすぐ横のため、乾燥機から出る粉塵を線路に行かないようダスト装置の設置が必要だが、スペースが狭く簡易型しか設置できないのが現状である。

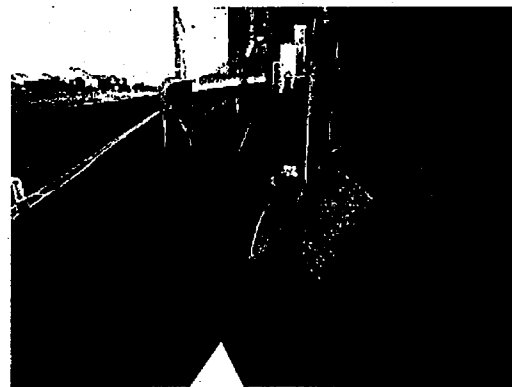
- ・農地の集積に伴いほ場が広範囲となっているが、特にコンバイン、田植機は公道を走ることができない。また、作業機の自走ではキャタピラ、タイヤの摩耗が激しいことから、現在は汎用トレーラーを借用して運搬している。
- ・現在所有している乾燥機 4 台合計 125 石の処理能力は、1 日当たり生籾約 8,600 kg (1.3ha) を乾燥できる。また、籾摺り機 5 インチの処理能力は 1 日当たり乾籾約 7,800 kg (玄米約 200 袋) である。しかし、処理能力が低いため受託分の乾燥調製の要望がある日は法人分の収穫を制限せざるを得ない。
- ・籾摺時に発生するモミガラを収納するタンクは 2 時間程度で満タンとなり、その都度排出作業が必要で非効率である。

(改善策)

- ・J R 沿線の乾燥機から排出される粉塵の処理室を設けることで、J R に粉塵被害が及ばないようにする。
- ・作業機を積載し安全に移動させるために、汎用トレーラーを導入する。
- ・乾燥機を増設することで籾の処理量を増やし、6 インチ籾摺機、色彩選別機で素早く処理することにより、収穫から乾燥調製までの循環をスムーズに回す。
- ・籾殻庫を設置することで、1 日 1 回の排出作業で済むため、籾摺り作業中のオーバーフローの心配がなくなる。



J R 沿線の作業場



J R との境界杭



乾燥・籾摺り作業場



籾殻タンクからの排出作業

③ 経営を継承できる後継者の育成

〈問題点〉

- ・当法人の常勤者 3 名の平均年齢は ■■■ 才で年々体力の低下を痛感しており、ケガや病気で 1 人でも欠けると適期作業ができない。
- ・法人を将来に渡り継続発展させるためには、経営を継承できる後継者の育成が急務であるが、候補となる人材を確保できていない。

〈改善策〉

- ・経営規模を拡大するためには労働力が必要であり、令和 2 年度に 1 名の職員を採用することができた。さらに、農業大学、ハローワーク等で求人募集し 5 年以内に職員を 1 人雇用する。
- ・資格取得や技術向上による手当の導入を行い、従業員の労働意欲を向上させる。
- ・週間予定表を計画し、毎日の朝礼時、職員に自主性を持たせる意味で、1 日の行動を考えさせたくえで作業指示をするよう努める。
- ・作業が順調にできるようになったら、水稻担当部長、白ねぎ担当部長、麦担当部長等各品目の責任者として作業に従事することで責任感を育てていき、将来的に経営を継承したいと考えている。

表 2 生産面積計画

単位：a

品種・品目	R 元年 (実績)	R 2 年	R 3 年	R 4 年	R 5 年	R 6 年
コシヒカリ	606	827	900	900	900	900
星空舞	157	199	220	250	270	300
きぬむすめ	1,166	1,161	1,200	1,250	1,300	1,380
WCS	210	0	0	0	0	0
小計 A	2,139	2,187	2,320	2,400	2,470	2,580
小麦	221	294	310	320	320	320
秋冬ねぎ	18	16	30	40	50	60
ソバ	20	40	40	40	40	40
小計 B	259	350	380	400	410	420
経営面積 (A+B)	2,398	2,537	2,700	2,800	2,880	3,000
作業受託面積 C	700	800	850	900	950	1,000
合計面積 (A+B+C)	3,098	3,337	3,550	3,700	3,830	4,000

#### 4 がんばる農家プラン支援事業の内容

表3 支援事業内容

取組内容	事業費 (千円)	R3年度	R4年度	R5年度	支援体制
乾燥・粃摺り作業場 (84.24 m <sup>2</sup> )	9,360	◎			本人・県・町
粃殻庫 (38 m <sup>3</sup> )	2,071	◎			本人・県・町
設 乾 備 燥 一 調 式 製	粃摺り機 6インチ	3,850	◎		本人・県・町
	玄米色彩選別機	3,600	◎		本人・県・町
	チェーンコンベア等	1,932	◎		本人・県・町
	乾燥機 60石	2,436		◎	本人・県・町
6条刈コンバイン	16,060		◎		本人・県・町
汎用トレーラー	1,091		◎		本人・県・町
水稻の収量・品質向上		○	○	○	本人・県
従業員の研修		○	○	○	本人・県
農地集積による規模拡大		○	○	○	本人・機構・ 農委
合 計	40,400	20,813	19,587		

◎：がんばる農家プランにて実施 ○：本人が主体となって実施

#### 5 事業効果

本プランを実施すると以下の事業効果が見込まれる。

##### (1) 地域農業と農地を守る

- ・高齢化等で農業を継続できなくなった水田等を引き受けることにより、荒廃する農地を防ぐことができる。
- ・法人内で後継者育成を行うことは、地域の担い手育成を図ることであり、経営継承がスムーズに行うことができ、永く地域農業と農地を守ることができる。

##### (2) 新規就農の受け皿

法人に就農することで、独立自営農業よりも初期負担が少なく、農業経営に必要な知識や栽培技術の習得が可能になり、地域の担い手を増やすことができる。

##### (3) 所得向上

規模拡大や経営の多角化を図ることは経営発展や安定に繋がり、所得が向上するとともに「産業としての農業」のイメージ向上となる。

#### 6 添付資料

- (1) 収支計画
- (2) 年間作業計画
- (3) 作業場配置図
- (4) 減価償却一覧表
- (5) 機械施設カタログ、見積書
- (6) 農業経営改善計画写し